

広報

2008秋号 vol.6

119



地域の防災はみんなの力で!

9月13日一関市総合体育館で、第11回救急の日の集い「レッツトライ! 応急手当コンテスト」が開催されました。参加者の皆さんは、日頃の訓練で得た技術を十分出そうと一生懸命に取り組みました。

●●● 今後の行事予定 ●●●

10月 26日	災害救護研修会 (一関会場)	1月15~21日	防災とボランティア週間
31日	防火管理者講習	26日	文化財防火デー
11月 2日	災害救護研修会 (花泉会場)	2月7日	危険物取扱者試験
8日	防火ポスター表彰式	下旬	優良自主防災組織等表彰式
9日	災害救護研修会 (東山会場)	3月1~7日	春季火災予防運動
9~15日	秋季火災予防運動		
16日	災害救護研修会 (室根会場)		

一関市消防本部のホームページURL

URL <http://www.city.ichinoseki.iwate.jp/syobo/index.html>



伝えよう!
カスリン・アイオン台風60年
忘れまい! 先人達の努力と勇気

平成二十年秋季全国火災予防運動

十一月九日～十五日まで、平成二十年秋季全国火災予防運動が「火のしまつ 君がしなくて 誰がする」を統一標語に全国一斉に行われます。

一 関市消防本部では、次に掲げる項目を重点に運動を展開しますので、ご理解とご協力をお願いします。

- 一 住宅火災予防対策の推進
- 二 特定防火対象物等における防火安全対策の徹底
- 三 防火意識の普及啓発

火災から身を守るための次のポイントに注意しましょう。

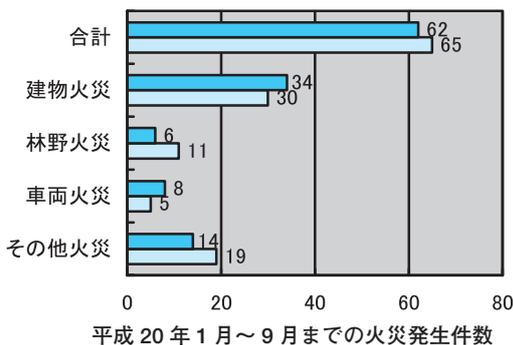
★三つの習慣
〇寝たばこは絶対やめる
〇ストーブは燃えやすいものから離れた位置で使用する
〇ガスコンロなどのそばを離れるときは、必ず火を消す

★四つの対策
〇逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する
〇寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために防炎品を使用する
〇火災を小さいうちに消すために、

エアゾール式簡易消火具に注意！！

2001年11月から2002年7月に製造 [品質保証期間(2005. 1～10)]されたヤマトプロテック(株)製エアゾール式簡易消火具の一部の商品に、製造工程上の不具合により、缶内面が腐食し、液漏れや亀裂・破裂の可能性があることが判明し、現在当該消火具を自主回収しています。

詳しくは下記に問い合わせください。
ヤマトプロテック(株) お客様相談室
0120-801-084



平成二十年一月から九月までの火災概況

一関市消防本部管轄の一月から九月末までの総出火件数は六十二件で、前年同期に比べ三件減少しました。

住宅用消火器等を設置する
〇お年寄りや身体の不自由な人を守るため隣近所の協力体制をつくる

防火ポスター入賞者発表

消防団長賞



一関市立清田小学校3年 千葉 樹さん

消防長賞



一関市立門崎小学校4年 千葉 孟さん

市長賞



一関市立薄衣小学校4年 金今 智里さん

一関市消防本部火災予防運動の一環として、一関市・平泉町・藤沢町内の各小学校から、防火ポスターを募集したところ九百七十二点の応募がありました。入賞された皆さんは次のとおりです。

優秀賞

- 一関市立南小学校四年 小岩 広周さん
- 一関市立千厩小学校四年 小野 素生さん
- 一関市立清水小学校四年 糸谷 裕太郎さん
- 一関市立興田小学校四年 伊東 彩さん
- 一関市立猿沢小学校四年 菊地 大智さん
- 一関市立長坂小学校四年 千葉 海都さん
- 平泉町立平泉小学校四年 相坂 詩織さん
- 平泉町立平泉小学校四年 渡辺 菜月さん
- 藤沢町立黄海小学校四年 皆川 純也さん
- 藤沢町立新沼小学校四年 三浦 真子さん

佳作入賞者の発表については入賞者が多数のため省略させていただきます。また、佳作以上の入賞作品は秋季火災予防運動期間中に一関サティに展示(十一月八日から十四日午後三時まで)する予定です。お誘いあわせの上ご覧ください。

子供の命を守るために

県立磐井病院 救急医療科長 片山 貴晶

現在、後部座席もシートベルトの着用が義務づけられています。小児に対しては、六歳未満の小児はチャイルドシートの着用が義務づけられています。にもかかわらず、子どもが後部座席に立ってはいないでいる姿や、助手席に無理やりシートベルトを装着して座らせている姿もよく見かけます。

平成十六年の一年間に、自動車乗車中に交通事故に巻き込まれて磐井病院に救急搬送された八歳未満の子どものは二十人で、このうち全くけががなかったのは三人でした。いずれもチャイルドシートを装着していませんでした。残りの十七人はけがをしており、いずれもチャイルドシートを装着していませんでした。このうち一名は残念ながら亡くなりました。交通事故は多数発生していますが、チャイルドシートを装着していた例では、全くけがなく病院にすら来ないとも考えられます。

大人でも後部座席でのシートベルト未装着は非常に危険です。多くの人が衝突の際に前部座席に頭を打ちつけて怪我をします。最も悲惨なのが、前部座席に座っている人から後部座席に、双方とも大けがをすることです。これは子どもの場合でも同じで



チャイルドシートは子供の命を守ります。

す。

わずか一年間を見ても、車が衝突したはずみで両側のドアが開き、子ども二人が転落した例、助手席に座っていて、衝突の際にフロントガラスが割れてそこから小児が飛び出し川に転落した例、後部座席の床にかごを置いてその中に乳児が寝ていましたが、車が横転した際に投げ出された例、助手席の母親に抱かれた乳児が車の衝突の際にフロントガラスに頭を強くぶつけて亡くなった例など数多くありました。すべてチャイルドシートさえ装着していれば、病院にすら来ていなかったことでしょう。

事故時に安全を守るだけでなく、子どもが暴れたりして運転の妨げになることも防ぎ止めます。子どもを乗車中に拘束しておくことも大切です。中には嫌がる子どももいると思いますが、そんなことは言うてはいられません。子どもの体重が十八から三十六kgの場合にはシートベルトの位置を適正にするため、後部座席で小児用補助イス型チャイルドシートを必ず使用して下さい。子どもが身長百四十cm、体重三十六kg、または乗用車の座席に膝を曲げて座れるようになるまでは、シートベルトだけをういても適正に拘束することができず極めて危険です。

シートベルトは身長百四十cm以上用で作られているそうです。十二歳以下のすべての子どもは、後部座席に座らせるべきです。特に六歳以上は義務がないので装着しないのではなく、子どもを守るためにも適正にチャイルドシートを装着して下さい。ちょっとそこまで、でも必ず装着して下さい。

手当ての技術を競う

応急手当コンテストを開催

九月十三日、一関市総合体育館において、第十一回救急の日の集い「レスツトライ! 応急手当コンテスト」を開催しました。

このコンテストは日ごろ身に付けた応急手当の技術を競技会方式により実践し、参加者相互の応急手当の技術の向上を図ることを目的におこなったものです。

AED心肺蘇生法競技と災害想定応急手当競技の二種目に、一関市、平泉町及び藤沢町の高校、企業・事業所、自主防災組織などから延べ四十八チームが参加しました。

AED心肺蘇生法競技は二人一組で成人に対する心肺蘇生法とAED操作の正確性を、また、災害想定応急手当競技は四人一組で骨折や出血などの負傷箇所への処置の正確性と搬送の速さを競いました。

参加者は緊張感のある中、日ごろ身に付けた応急手当の手法を披露し、知識と技術を確かなものとしめました。

各競技の最優秀賞は次のとおりです。

AED心肺蘇生法競技

○企業・事業所の部

東山フェルト株式会社(東山町)

○自主防災組織の部

藤沢三十六区自治会自主防災部

(藤沢町)

○高校の部

岩手県立大東高等学校中津川・藤沢チーム

災害想定応急手当競技

○企業・事業所の部

特別養護老人ホーム寿光荘(花泉町)

○自主防災組織の部

神子ノ沢自主防災会(千厩町)



応急手当の早さと正確さを競い合いました。

救急車の適正利用と協力を!

近年、全国的に救急車の出動件数が急増しています。

救急車を呼んだ理由のなかには「夜間・休日診療時間外だった」、「救急車で病院に行ったほうが優先的に診てくれると思った」、「交通手段が無かった」といった本当に救急車が必要だったのか疑問に思う事例もあります。

緊急性が無いのに救急車を要請すると、本当に迅速な救命処置、医療機関への搬送が必要な重症患者のもとへの救急車の到着が遅れ、助かる命を救えなくなる可能性があります。緊急性が無く自分で病院に行ける場合などは救急車の要請は控え、一般の交通機関を利用しましょう。

救急車以外に搬送の手段が無く、緊急に医療機関に搬送しなければならぬ場合は、迷わず救急車を要請してください。

岩手・宮城内陸地震で一関地域婦人消防協力隊が避難所にて被災者の方々の支援活動を行いました。

六月十四日発生した、「平成二十年岩手・宮城内陸地震」で、一関地域婦人消防協力隊員五十四名が、避難所となった一関市立本寺小学校（厳美町）で、約一週間支援活動を行いました。

災害発生時は、道路が寸断された集落の被災者や観光客の方など多くの方々がヘリコプターにより避難所へ搬送されてくるため、毛布やタオルケットを配布しながら、避難所内の誘導を行い、避難者の話を聞くなどして、少しでも避難者の不安を和らげるよう活動しました。

二日目以降には炊き出し場所も完備され、富山県・新潟県から駆け付けたボランティアの方々と協力して豚汁を作り、また、食事の差し入れを配給するなどの支援活動を行いました。



豚汁の応急給食活動を行いました。



救援された物資を配布しながら、避難者とのコミュニケーションを図りました。

食事までの空き時間を利用して、子供達には本を読み聞かせたり一緒に遊んだりするなど、避難者とのコミュニケーションを通して心の支援活動も行いました。

今回活動を実施した一関地域婦人消防協力隊の鈴木克子隊長は「婦人消防協力隊はボランティア団体です。災害時の支援は誰かがしてくれるのではなく、誰かがしなくてはならない。今回避難所への支援活動を実施した教訓と反省を生かし、更なる訓練を積み重ね、市民の方々に愛され、信頼される協力隊を目標に今後も活動していきたい。」と話していました。

自主防災力の向上に向けて

『防災マニュアル』を作成

川崎町所轄自治会自主防災会

川崎町所轄自治会防災会では、防災マニュアル編集委員会を立上げ、検討を重ねた結果、今回念願の防災マニュアルを完成させ、全戸へ配付しました。

マニュアルには、家庭での日常的な防災対策、災害時の対応と地域での役割分担、住民名簿や家族構成などが記載されています。更に、イラストなども活用しながら子供から老人までわかりやすい内容になっています。また、最新の情報に更新することや、ホルダーの余りに、各世帯で独自の資料を入れることができるように、用紙の出し入れが可能なクリアファイルを使用した冊子になっています。



マニュアルには災害時の対応や役割分担などを定めています。

非常持ち出し品を配備

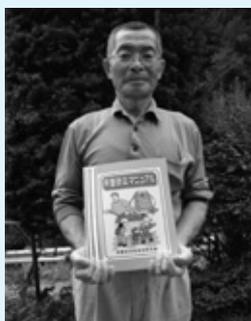
大東町旭町自治会自主防災組織

大東町旭町自治会自主防災組織は、自治会全域で取り組んだ集団資源回収の益金を活用し、自治会六十世帯に非常持出袋と持ち出し品を配布しました。

非常持出袋は布製のリュックサック型で大きく「摺沢旭町」の文字が入り、住所や名前、性別、血液型が書き込めるようになっていきます。夜間でも目立つように夜光反射材のテープも張ってあります。袋の中には発電式の懐中電灯と補助ロープ、ばんそうこう、三角巾、包帯が入っており、軍手、薬品など、他に必要な物は各自で準備し、各家庭の玄関内に常備をしました。



発電式懐中電灯等を各家庭に配備しました。



自治会全戸に配布された「防災マニュアル」

発行日

●平成20年10月25日

編集

●一関市消防本部
〒021-0053
岩手県一関市山目
字中野140-3
TEL
(0191) 25-0119